

## 平成23年度 第5回平田地域協議会 会議録（概要）

1. 日 時／平成24年2月23日（木）午後2時～午後5時
2. 場 所／平田総合支所 302号室
3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦）  
奥山仁委員、伊藤市太委員、阿曾重雄委員、菅原律子委員（副会長）、  
堀弥志男委員、長谷部耕次委員、加藤勝子委員、庄司美智子委員、  
石黒真委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・計9名  
  
（2）2号委員（識見を有する者）  
阿部敬子委員、阿部彦悦委員・・・・・・・・・・・・・・・・計2名  
  
（3）3号委員（公募）  
石黒由香委員、富樫文雄委員（会長）・・・・・・・・計2名  
  
（4）酒田市平田総合支所  
齋藤啓一支所長、石川忠春地域振興課長、中條幸弥市民福祉課長、  
佐藤政好建設産業課長、地域振興課 土田瑞穂課長補佐、  
小松原毅地域振興主査兼係長、地域振興係 阿部光正主任・・・・・・・・計7名  
出席者合計20名
4. 欠席届／阿曾智子委員（1号委員／団体推薦）、  
石黒均委員（2号委員／識見を有する者）・・・・・・・・計2名
5. 傍 聴／1名
6. 次 第／（1）開会  
  
（2）会長あいさつ  
  
（3）支所長あいさつ  
  
（4）会議録署名委員の選任

(5) 報告

- ①大雪への対応について
- ②平成24年度 地域づくり予算(案)について
- ③平成24年度 酒田市行政組織機構の見直しについて
- ④拠点とならない旧分館施設のあり方について(検討状況)

(6) 協議

平成23年度 市長へ報告する地域課題(案)について

(7) 地域課題について

(8) 閉会

7. 会議録 / (1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

皆さんこんにちは。

本年も大変な大雪であった。特に中山間部においては、想像以上の積雪であり、学校関係でパトロールを行った際、私の四輪駆動車でも、行くのに躊躇するほどであった。とにもかくにも、自然のことであり、住民の生命財産等については守りながら、この自然と闘っていくのも、平田地域の宿命であろうと思っている。

飛鳥中学校と松山中学校の統合については、各団体や組織など、いろいろな場で話し合いがなされているが、とにもかくにも、生徒が主体であるということを踏まえながら、この地域協議会においても様々なご意見を出していただき、良い結果を生むようにしていきたい。

先日市長と同席した際、今後、私たちが背負っていかなければならないのが、少子化という課題であるという話をしていた。私たちの身近において、いつの間にか非常に大きなものになっているこの課題に対し、皆さんと一緒に、取り組んでいかなければならないということであった。私もまったく同感であり、特にこれは、一朝一夕で解決できるものではなく、すべての方々が総参加で、この少子化という課題に対応すべく知恵を出し合い、努力していかなければならないと思っている。

地域の活性化に向け、本日も、委員の皆様から積極的にご発言いた

だくことをお願いし、あいさつとさせていただきます。

### (3) 支所長あいさつ

#### ▶ 齋藤支所長

どうもご苦労様でございます。

会長の話にもあったとおり、今年も大雪で、鹿島では160センチを超えている。たぶん、雪下ろしも2回はやっているのではないかと。被害については、元田沢の鷺沢の、夏に大雨で被害を受けた稲倉が、雪の重みで倒壊したり、ビニールハウスの被害が発生したりしているが、昨年ほどの被害件数には至っていない状況である。

平成24年度の予算も固まりつつあり、明日2月24日から3月15日までの3月定例議会において、予算の審議も行われる。先ほど、少子化対策でしっかりとがんばっていかねばならないという、会長の話に関連し、一つだけ情報提供をさせていただきたい。子育て支援の一つとなるが、現在、農村環境改善センターの1室を借りて行われている学童保育が、児童数が増えて手狭になっているという状況の中、関係する皆様からの要望もあり、平成24年度に、施設整備が行われる方向である。議会前ではあるが、ここだけ一つお許しをいただき、話をさせていただいた。

今回の地域協議会は、報告案件が4件と協議事項が1件の内容となっている。ご審議について、よろしくお願い申し上げます。

### (4) 会議録署名委員の選任

#### ▶ 富樫会長

会議録署名委員に、堀弥志男委員を選任いたします。

### (5) 報告

#### ①大雪への対応について

▶ 佐藤建設産業課長（資料に沿って説明）

▶ 中條市民福祉課長（資料に沿って説明）

#### ②平成24年度 地域づくり予算（案）について

▶ 石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶ 佐藤建設産業課長（資料に沿って説明）

#### ▶ 伊藤委員

「ふれあい支援農道ウォーキング大会開催事業」について、前回の地域協議会の資料には載っていなかったが、地域づくり予算に組み込まれた経緯と、来年度以降も継続されるのか、それとも単年度だけの事業な

のか説明いただきたい。

▶石川地域振興課長

「ふれあい支援農道ウォーキング大会開催事業」については、前回の地域協議会で提出した、地域づくり予算の案には入っていなかった。前回の地域協議会の後に、こうした事業の必要性が出てきたため、開通に合わせて1回限りの事業として計画した。予算要求は、地域づくり予算とは別に1本の事業として要求したが、予算の組み立てとしては、平田総合支所の、地域づくり予算に含まれる形となった。この事業は、3総合支所の共同事業として、地域内の団体等で実行委員会を組織して実施する予定である。

▶堀委員

3総合支所ということだが、事業費については、平田総合支所の地域づくり予算61万5千円のほか、八幡・松山総合支所においても予算化されるのか。

▶石川地域振興課長

事業エリアは3総合支所管内だが、予算要求課は平田総合支所地域振興課であり、3総合支所それぞれで予算化されるものではない。

▶阿部敬子委員

「都市・農村農業体験交流事業」について、田園調布学園のファームステイも10回目を迎えるということだが、市としては、今後も続けていく方針なのか。

▶佐藤建設産業課長

今のところ、やめるという話は出ておらず、継続されると考えている。

▶阿部敬子委員

平田に来る前は、尾花沢だったと思うが、そちらは10年になったということで、その後平田で受け入れることになったとのことであった。その受け入れる段階で、平田も10年だとか、そういう話しはなかったのか。

▶佐藤建設産業課長

私が引き継いでいる段階では、何年度で終わるとかという話しは出ていない。

▶長谷部委員

これまで、田園調布学園の生徒方を受け入れてきて、平田地域にとって何がプラスに作用したか、市としてはどう捉えているのか。この事業により、地域にはこういう状況が生まれ、やはり今後も続けていくべきだと言えるような環境にあるのか、それとも、今後は少し考えようかというところなのか、そのあたりをどう考えているのか。ホームステイを

受け入れた家庭では、せっかく来てもらった子どもさん方に、辛い思いとか嫌な印象を与えたくないということで、家庭的雰囲気を出すなど、非常に努力しておられる。子どもさん方からも、よくお礼状も来るようであるし、非常に好意的に捉えてくれている。それは確かに分かるが、予算を使った効果というものをどのように考えているのか。

▶佐藤建設産業課長

ホームステイの受け入れ家庭については、平田地域では減っているというのが実情で、その部分を、平田に近い酒田エリアの方々をお願いしており、昨年度は66世帯から受け入れていただいた。交流については、生徒が東京に帰ってからも、交流が続いている受け入れ家庭もある。都会の若い世代との交流により、感覚的な部分においても、平田の活性化つながっているのではないかと考えている。

また、総合教育の中で、飛鳥中学校と田園調布学園の2年生同士の交流もあるが、都会の同じ学年の子と、話したり接したりすることは、平田の子どもたちにとってもプラスであると思っている。物産関係では、めんたま畑から、平田産の農産物などを東京に送っているが、20数万円ほどになると聞いている。産直と都会とのつながりは、今後さらに必要になると思っている。こうしたことから、地域の活性化という意味において、継続した方が良く考えている。

▶長谷部委員

平田地域での受け入れ家庭は、減っているということだが、元祖であるこの地域における評価は、あまり高くないということか。まあ、家庭の事情もあるのだと思うが。酒田市として捉えた場合、平田地域以外でも受け入れてもらっており、今後は酒田市対田園調布学園ということになるわけで、そのあたりの総合評価については、マイナスではないということで、まあありがたいことである。ただ、平田地域としてみると、今いち何かマイナス要素があるなど。その部分は、少し疑問が残るところである。

▶齋藤支所長

平田地域における、受け入れが減っているということについては、事業に対して否定的だということではなく、高齢化であるとか家庭の事情により、やむを得ずという状況がほとんどである。受け入れ家庭については、73パーセントが平田地域の皆さんで、残り27パーセントが平田地域以外の方々である。

③平成24年度 酒田市行政組織機構の見直しについて

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶中條市民福祉課長（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

税務関係の業務を、本所に一元化するということが、たとえば、高齢者で運転免許も持っていない方の納税などについて、不便をかけることなく対応できるのか。

▶中條市民福祉課長

現在は、口座振替がずいぶん増えており、ご指摘いただいたような方々について、納税窓口そのものの影響は、比較的少ないと思っている。ただ、若干滞納気味で、なかなかこちらにおいでいただけない方については、現在は本所と総合支所の職員とで伺っているが、今後は、本所の徴税吏員の資格を持っている職員が、回らせていただくことになる。それから、定期的に、たとえば督促状を出した時期であるとかに、総合支所へ特設窓口を開設して対応する予定もある。

▶長谷部委員

口座開設をできない人も、まだいる。そういった方々に対し、口座の作り方とかを説明するといった対応も考えてもらいたい。

④拠点とならない旧分館施設のあり方について（検討状況）

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶堀委員

ただ今の報告を聞いて、驚いている。旧分館施設の維持管理については、コミュニティ振興会の会長や副会長までは説明されているのだと思うが、この「地域での検討状況」に、各自治会の意見が反映されているのだろうかという感じを持つ。コミュニティ振興会の会長、副会長の意向で、ここに載ってきたというのは分かるが、郡鏡山谷の方ではこういった話はなかったし、集まって相談したとも聞いていない。災害時も含めて、よりどころが必要な時に、コミュニティセンターだけでいいのか。特に、多集落を抱えるコミュニティ振興会、たとえば北俣であれば、生涯学習センターへ来ればいいのかという問題ではないような感じがする。

▶石川地域振興課長

「地域での検討状況」については、市で示した基本的な方針、無償譲渡を受ける気持ちがあるかということに対し、地域での検討状況を整理した。ここにまとめるまで、市の基本方針自体に対しても、こうした方が良いとか、意見も出ている。また、これまでと同じ形で使っていけないかという要望もあった。無償譲渡については、受けたいという所と受けられないという所があり、これらを受けて、市として検討するという事も出てくる。

なぜ今、整理が必要かということ、無償譲渡を受けるという所は、平成26年の4月で受けることになる。すると、平成25年度の予算で必要

な箇所を修繕しなければならない。そのためには、平成24年度の早いうちに、方向性や払下げについて決定していないと、平成25年度の予算要求に間に合わないためである。今回説明した内容は、あくまでも、地域で検討している内容であると受け止めていただきたい。

▶長谷部委員

ここにコミュニティ振興会の代表者も出席しているが、この方々は、この議論について承知しているということか。

▶石川地域振興課長

コミュニティ振興会連絡協議会の開催後、その都度検討した内容を、地域に持ち帰ってさらに検討していただいている。地域により様々だが、中野侯では、自治会長会を開いて検討していただいている。無償譲渡を受けても、管理していけないので無理であるとか、今までの施設も必要だし、負担があっても受けた方が良いのではといった検討状況を、ここに載せている。郡鏡山谷地域において、自治会長方で話し合われているかということまでは把握していない。

▶長谷部委員

平成26年度以降に補助金が無くなると、山元、中野侯、北侯の人たちは、建物の無償譲渡を受けても、光熱費など維持管理費がその地域においては高額な負担となるので、欲しいことは欲しいが、受けられないという表現になるのだと思う。人口の多い所は、自己財源も比較的あるわけで、であるから山谷、檜橋、砂越緑町は、修繕さえしてもらえれば、後の管理費は自分たちで何とかなるとのことだと思ふ。山元、中野侯、北侯については、維持管理ができないということだが、誰も受け手がいない場合は解体するのか。

公共物の解体は、坪当たり3万円から3万5千円かかる。たとえば3百万円かかるのであれば、年25万円の補助金10年分が、そこに生まれる。金銭的な効率性と、地元の要望に対応する部分、もう一つは、災害時における避難場所の要素としても補えることができる。たとえば山元の方々が、災害発生時に田沢コミュニティセンターまで来るのに、どのくらいの距離があるのか。必ず出てこられるという状況も、保証はされておらず、やはり拠点というものは確保しておくべきである。維持管理費がかかるので地元では受けられないということになれば、結局は解体となり、仮に100坪だとすると、解体費は350万円になる。もっと地域の方々と深く踏み込んだ議論をして、方向性を持っていくべきだと思うが、これについてはいかがか。

▶石川地域振興課長

無償譲渡の前に、必要な箇所を修繕して渡すという考え方は、市がそ

の老朽化したものをずっと持っていれば、いずれ解体費用も発生するわけで、そうしたことも考え、もし地元が使いたいということであれば、きちんと修繕したうえで譲りたいということである。維持管理費のことがあり、本当は使いたいのだが受けられないという所についても、一度本所に報告する。解体も含め、その建物をどうしていくかについては、そこで判断することとなり、その際に、市の関係各課で検討、整理していくことになる。

▶長谷部委員

飛鳥の自治会館は、旧平田町の補助制度と地元の負担で建設し、コミュニティ振興会ではなく、地区の自治会館として維持管理し活用している。人口が多く財源があると、そういうこともできる。地元の考えもあるわけなので、どうこう言えないが、市で修繕もするというのであれば、防災面とかを考えると費用をかけて無くするよりは、その分を維持管理費に充当するというのも考えてもらいたい。

▶菅原副会長

砂越緑町自治会としては、自己財源があるということではなく、集会所もなく自主防災上も必要であるということから、維持管理費があるとかないとかいう問題はまず抜きにして、砂越緑町に施設がないと困るという観点から、まず残していただくというようなことで返事を出した。維持管理費も十分あるし、まず何とかなるであろうというようなことではなく、本当に最終的な決断としてこういう返事を出している。また、土地についても、とにかく無償で貸してもらいたいとお願いしている段階だが、まだ決まっていない。維持管理費についても、山元、中野俣、北俣の皆さんと一緒に、困っているところに文書で出せばいいのだが、ここは他の三つの施設と同じ立場である。

(6) 協議

平成23年度 市長へ報告する地域課題（案）について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶伊藤委員

旧分館施設のあり方については、山谷、檜橋、砂越緑町では譲渡を希望しているが、山元、中野俣、北俣の施設に対する要望というの、一言あってもいいのかなという感じがする。これを見ると、譲渡を希望していないからいらぬのだという感じもするので、本当は必要なのだが、負担付きでは維持できないので、何とかしてもらいたいというようなことを入れてもらいたい。

▶奥山委員

それは、私からもお願いしたい。地域協議会で策定した、平田地域ビ



ジョンの安心安全の地域づくりの所に、「災害時に孤立する危険性の高い地域にある、旧分館等の施設を防災拠点や避難場所と位置付けた、施設の維持管理や防災設備の拡充」という文言が入っていたので、安心していただけただが、山元では譲渡を受けたいけれども受けられないという状態で、諦めざるを得なかった。伊藤委員の発言にあったようなことも、入れてもらえればありがたい。

▶阿部敬子委員

私も奥山委員と同じで、中山間部は当然人口も少ないわけで、平野部と同じ考え方では困る。施設は欲しいが、自分たちで維持管理の費用を負担していくのは、やはりきついところがあり、譲渡を希望しないという結果になったのだと思う。私たちも平成20年度から、地域資源を生かしながら、地域活性化プロジェクトとして、交流人口の拡大に向けた様々な取り組みを行ってきたが、来てくださった方を受け入れる施設は、やはり旧山元分館と旧阿部家である。

実際使用してみて、旧阿部家は趣のある施設ではあるが、台所は昔のままであり、使い勝手が悪いという話もずっとさせていただいている。実際は、旧山元分館の方を多く利用させていただいており、そこが無くなると、何をどこでどうすればいいか、今後活動していけなくなる。すべてが同じという見方ではなく、中山間部に対しては特例的な考えで、市から対応してもらえないかという思いを強く持っている。

▶加藤委員

平野部でも中山間部でも、拠点となる公民館が無くなると、お年寄りが近くで集まる場所が無くなってしまうので、やはりその辺は考えていただきたい。補助金なども一気に無くすというのではなく、少しずつ減額しながら、地域としても、自分たちで努力をするような形の取り方とか、いきなり壊すとかではない方向で検討していただきたい。

▶阿曾重雄委員

旧分館施設のあり方について、檜橋でも、自治会館を一番使っているのはお年寄りである。週に2回ほど、お昼もそこで食べて、1日過ごすような会もある。みんなが集まれる場所が今の自治会館であるので、旧分館が無くなると、大変困る人たちが増えるのではないかと。旧分館に対し、現在交付されている25万円が入らないということになると、自治会費を上げなければならない。水道光熱費に充てている25万円分について、所得に応じて自治会費を上げていくことも検討している。

▶石黒由香委員

「ひらた生涯学習センターの機能強化と隣接市有地の活用」について、よろしくお願ひしたい。

自治会に対する支援のところ、継続的な支援とあるが、具体的にはどのような支援なのか。また、現在はどのような支援を行っているのか。

▶石黒真委員

旧分館のあり方は、地区の防災面とも関係する。やはり高齢者も多く、何かあったときにどこに行くのかということもあるので、安全に安心して生活していくためにも、残していただきたい。高齢化も進んでいることから、負担が増えると大変であり、そういったことも考えながら、旧山元分館を残してもらいたい。

▶阿部彦悦委員

旧分館施設のあり方について、話しを聞くとかなり温度差が見られる。自治会長までしか知らない所とか、コミュニティ振興会の、会長、副会長や役員だけで話している所とかあるようなので、住民は知らないということのないような指導は、やはり行政で行わなければならないのではないか。総会シーズンであり、集まる機会もあるわけで、その際、旧分館について話し合ってもらえるような指導をしていただきたい。

▶庄司委員

自治会に対する支援について、小規模集落における女性の雑談的な中でのことだが、自治会費が高いという話になった。自治会長の負担も大きくなり、自治会への補助金も少なくなっているということで、結局は自治会費を上げなければならず、月千円や2千円であればそうでもないが、やはり3千円以上となると、高いという話になった。では、自治会とは何だろう、何をしてもらえるのだろうか、たとえば広報の配布についても、別に自治会に入っていないなくても市から送られてくるとか、若い方からはそんな意見も出た。それでもやはり、自治会が無いと、防災とか様々な面で大変なことは重々分かるので、自治会費を上げなくて済むよう、自治会に対する補助金が、減額にならないような考えをしていただきたい。

▶長谷部委員

過疎計画、地域ビジョンの早期実施のところ、できるものからという曖昧な表現でなくして、1番はこれ、2番はこれだとはっきりすべきである。今の財政上、できるものからと言っていたら何にもできない。

ひらた生涯学習センターの機能強化のところ、自然体験学習の拠点としての整備とあるが、何をするのか具体性を出すべきである。旧分館施設のあり方のところでは、山元、中野俣、北俣の悩みに対し、合併特例債や過疎債を活用して救済できないのかという、財源根拠まで議論してもいいのではないか。

▶石川地域振興課長

石黒由香委員から出された、自治会に対する支援についてであるが、平成22年度より、それまでの区長に対する報酬から自治会に対する補助金に変更された。この自治会運営補助金は、均等割りとして1地区に1万6千円、そこに世帯割が加算される。平成26年度以降は、3総合支所すべてが同じ積算となるが、平成22年度のころは、おおまかに言えば10万円を超える補助金の額であったが、平成26年度からは、1万6千円をベースにした金額となる。そうすると、自治会でも運営が大変になる。自治会長の報酬を、区長制度当時のまま維持するため、自治会費を上げてしまえば、住民の負担が増える。さりとて、自治会長の報酬を下げれば、今度は自治会長の成り手がなくなる。このあたりが、課題であると考えている。

このほか、中山間部の自治会では管理するエリアが広いとか、自然災害の影響を受けやすいという課題もあり、自治会長の負担も大きく、そのなり手の確保が大変である。したがって、そのあたりに配慮した形の支援が必要なのではないかと考えている。自治会運営補助金は、全市一律だとしても、中山間部や小規模集落に対して何らかの基準を設け、新たな仕組みでもって支援していくといった、そういうものも必要ではないかという思いを持っている。

▶富樫会長

先ほどから、拠点とならない旧分館施設についての考え方、活用方法についての意見が出ている。なかでも旧山元分館についての意見が多い。これについては中山間部にあるという事情や防災という観点も踏まえながら、提案活動を行っていかなければならない。市長に報告する内容については、この案を叩き台に、今いただいた意見を私と菅原副会長とで整理したうえで、地域課題として提出したい。

また各組織を代表する委員の方からは、本日話し合われた内容を組織に持ち帰ってご報告いただき、さらに検討を深めていただくことをお願いしたい。

(7) 地域課題について

▶阿部彦悦委員

昨年の水害等により、中山間部における水利の確保が厳しい状況である。建設産業課で申請しているとは思うが、工事等の対応について、よろしくお願いしたい。大雪もあり、融雪もどういった状況になるかわからないので、水利の確保について、まずは早めの対応をお願いしたい。

▶佐藤建設産業課長

県の護岸工事との関係もあるが、補助災害としては25箇所について、

査定が終わっている。工事期間としては、場所により5月いっぱいだったり、7月いっぱいだったりという状況である。工事については、川の濁り水の関係もあり、速やかに行っても4月の初めから向かうことになる。小規模土地改良の補助金を予定している箇所については、皆さんから4月の前に、早めに動いていただければ、申請後の交付決定といった事務を迅速に行っていきたい。

▶加藤委員

高齢者などに対する除雪の支援について、制度ごと要件があるのだと思うが、一人暮らしの方だけではなく、他の高齢者世帯からも、「うちもそうだ」「うちも大変だ」と言われる。支援者の登録や認定についても、「うち大変だなや年いって」という方が多くて、民生委員にその名前を上げるのだが、上げるときりがないほどの要望の数であり、どこまで上げていいのかと思いつながら、自治会長と一緒に各所へ相談している。除雪してくださる方には申し訳ないが、大変なことも承知しているが、もう一かきお願いできないか。

▶中條市民福祉課長

やさしいまちづくり除雪等援助事業や軽度生活援助事業については、それぞれ対象や要件が定められており、そのところを、もう一步踏み込んでというような形になると、どこまでやるかという線が引けない状態になってしまう。これらの、除雪に対する支援事業を実施するなかで、制度上の課題としてとらえている部分もあるので、来年度以降、市の方でいろいろと検討させていただきたい。

▶菅原副会長

私からは、除雪の対応について、建設産業課にお礼を申し上げたい。砂越緑町は土地ぎりぎりまで家や車庫など建物があり、除雪も大変なのだが、道路で車が交差できないような、もうどうしようもないような時に、2回ほど丁寧に排雪していただいた。本当に、今年の大雪はどこにいても大変であったが、ありがとうございました。

▶阿部敬子委員

県道田沢下新田線について、滝沢から旧山元分館までの測量が終わったとのことだが、今後、地元との話し合いはどのように進んでいくのか。

▶佐藤建設産業課長

県の事業に対し、市が協力という形で地元と一緒に入っている。現時点では、3月までに用地の境界を確定し、用地の幅などを調査して面積等を出す予定で進めている。今年度の予算で用地を取得できれば、来年度から着手したいと思っている。ただ、100パーセントの同意はまだいただけておらず、個別に協力をお願いしていくことになる。

▶阿曾重雄委員

榑橋地内の飛鳥バイパスの延伸部分について、一方通行の期間が続いているが、3月末までに開通するのか。

▶佐藤建設産業課長

今のところ雪で遅れているが、担当の話では、年度内3月中に、車道部だけは何とか通したいとのことであった。今の情報だと、歩道部はできないようだが、自動車は走れると聞いている。

▶阿曾重雄委員

歩道ができた時に、子どもたちの通学路はどうなるのか心配している。

▶富樫会長

この件については、私も飛鳥中学校、南平田小学校、平田駐在所と話をしている。工事の進捗状況にもよるが、通学路は新年度から変更となる。信号については、現在の場所から移設するということだが、最終的な日程などは決まっていないという状況である。

(8) 閉会

▶菅原副会長

委員の皆様、本日はお忙しいところお集まりいただき、本当にありがとうございました。第5回目ということで、平成23年度最後の会となったが、3時間十分に、地域の振興や活性化に向けた協議をさせていただいた。市民と行政とのパイプ役として、今後も皆様と心一つにしながら、この会を和やかに進めていけたらと思っている。

平田地域協議会を閉会いたします。どうもご苦勞様でございました。